

スライド 1

# 日本での畜産への期待

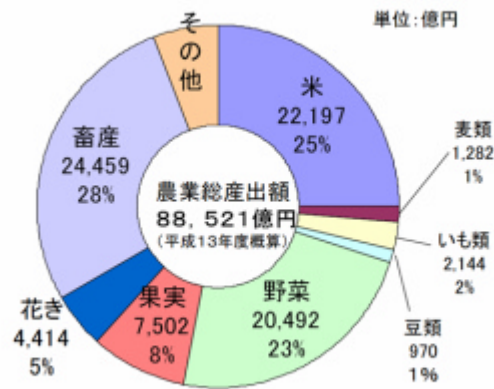
ーパルシステムの取組みに踏まえ、  
生協からの提言ー

生活協同組合連合会 首都圏コープ事業連合  
常務執行役員 山本 伸司

2005/3/28 pal\*system

スライド 2

我が国の農業総産出額



資料：農林水産省「生産農業所得統計」

スライド 3

○畜産物自給率の推移 (単位：%)

区分/年度	昭50	60	平7	10	11	12	13	14	15[概算]
牛乳・乳製品	81	85	72	71	70	68	68	69	69
肉類(計)	77	81	57	55	54	52	53	53	54
牛肉	81	72	39	35	36	34	36	39	39
豚肉	86	86	62	60	59	57	55	53	53
鶏肉	97	92	69	67	65	64	64	65	67
鶏卵	97	98	96	96	96	95	96	96	96

資料：農林水産省「食料需給表」

鶏卵（輸入穀物飼料）自給率96%問題

「自給」の定義に注意！ 「自給」＝国内生産の意味

牛肉自給率の低下→牛肉輸入自由化の影響にほかならない

2005/3/28 pal\*system

## スライド4

### 食の安全を脅かす事件と不安

- 1995～97年病原性大腸菌O-157感染
- 2001年9月国内初BSE感染牛の発見
- (10月全頭検査開始、肉骨粉使用禁止)
- 2004年1月11日鳥インフルエンザ発生
- (1925年以来79年ぶり 2/17大分2/27京都)
- 豚コレラ発生は無い(04年3月鹿児島はワクチンによる)

2005/3/28 pal\*system

## スライド5

### 食の安全を保障し安心を獲得するために

#### パルシステムの食料・農業政策(2000年3月31日制定)

- 農業が食料生産の根幹であり、食料と農業は統一的に把握するのが基本であり、その主体は、生産を担っている生産者と消費する消費者(両者は統一的に生活者)であると考え、その立場から、食料・農業政策を策定

#### 基本方針

資源循環型・環境保全型農業モデルを実現します。  
農業の厳しい状況を切り開くために、新たな発想にもとづく事業に挑戦し、生産者とのコラボレーション(協働)を推進  
「フードシステム」(生産から消費まで一貫したシステム)を確立します。

2005/3/28 pal\*system

## スライド6

### 食と農の距離の拡大

- 牛の生理を知らない(牛乳はいつも出ている)
- 部位バランスに理解がない(モモだけ)
- 食べ方を知らない(賞味期限、家庭での調理)
- 生命と食をいただくということの現実感覚の喪失
- 生産現場でも、専門性が行き過ぎ耕種農家との連携が弱い(糞と堆肥、粗飼料)

2005/3/28 pal\*system

## スライド7

### 生協の産直を更に展開します

- 2003年の生協産直の危機  
全農チキンフーズ偽装事件、など偽装事件続発のなか、我々も産直産地以外の肉を使用した「指定産地外原料使用問題」の発生  
産直「見直し」、一部「産直立ち枯れ政策」

#### パルシステム産直の目的

生活者の健康で安心なくらしに貢献するため、農業の持つ多様な価値を見直し、環境保全・資源循環を基本におき、農と食をつないで、豊かな地域社会をつくることを目的とします。

#### 用語定義

パルシステム産直 組合員と生産者が協働して、上記の目標を実現する、運動と事業をいいます。

2005/3/28 pal\*system

## スライド8

### 畜産生産への期待

トレーサビリティの確立 (誰が生産し加工し流通し販売しているか)

飼養方式の透明性

不必要な動物薬品の削減

飼料へのこだわり (安全性、粗飼料率、自給率、醗酵など)

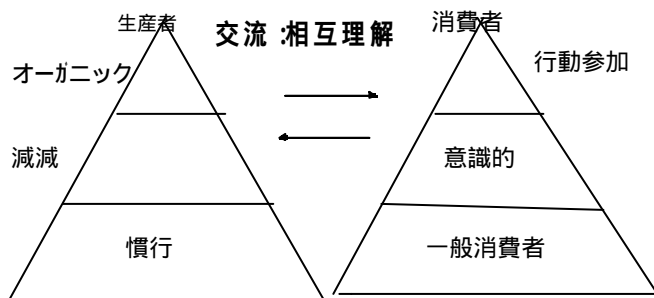
家畜福祉の考えかた

2005/3/28 pal\*system

## スライド9

### 挑戦的畜産への取組み

生産と消費の未来 :基礎と挑戦 (量と質、価格・価値)



2005/3/28 pal\*system

## スライド 10

### 北浦シャモ

- ① シャモ産物用 (カット済み 2cm 角) 供給量 2,300P/週
- ② シャモ親子兼用 (カット済み 3~4cm 角) 供給量 2,000P/週
- ③ 下期は骨付きぶつ切が売れ筋 供給量 2,500~3,000P/週

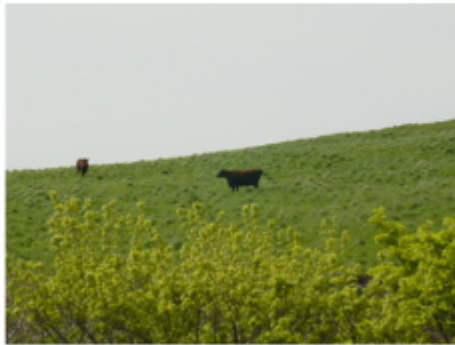


2005/3/28 pal\*system

## スライド 11

### アンガス放牧中

予約登録制、月1回/6ヶ月  
ふーどの牛肉：1頭あたり200人分になるように製品化  
04年度上期実績 2,800名 14頭  
04年度下期実績 3,200名 16頭  
(物価を連動セットにし値下げ4,179円(税込))  
05年度上期実績 2,600名 13頭



2005/3/28 pal\*system

## スライド 12

### 平飼鶏卵

ふーどの平均卵：販売価格6個・260円(税込) 登録制/週  
(全鶏体で月に800名程度の入れ替わりはある)  
03年度 26,000名  
04年度 26,500名  
MAX30,000名分くらいのキャパしかない為  
正しい養鶏方法は取っていません、月に1回映画  
で種時養鶏を行っている事を案内している。



2005/3/28 pal\*system

## スライド 13

# パルシステムの畜産供給高

単位：万円

	01年(実績・前年比・構成比)		02年(実績・前年比・構成比)		03年(実績・前年比・構成比)		04年(実績・前年比・構成比)	
組合員	16,511,419人	107.0	17,712,274人	107.3	19,759,946人	111.6	19,129,428人	107.6
畜産合計	1,075,068	103.4	1,145,129	106.5	1,222,978	106.8	1,388,118	113.6
牛肉	155,301	79.9	148,960	95.9	158,056	106.1	159,171	100.7
豚肉	395,457	110.8	441,630	111.7	482,377	109.2	479,121	99.3
鶏肉	208,470	116.2	221,484	106.2	220,550	99.6	206,032	93.4
畜産加工	315,838	102.3	333,045	105.4	361,593	108.1	343,793	95.1

\* 畜産の構成比は本誌受注金額の構成比になります。  
\* 04年度は04年4月 - 05年2月累計になります。

2005/3/28 pal\*system

## スライド 14

# 家畜福祉 (Farm Animal Welfare) とは何か

**家畜の苦痛の除去と虐待防止が眼目である！**

動物個体の保護と苦痛の除去という動物福祉の概念とは異なる

1977年 アムステルダム条約  
家畜福祉についての議定書

**「家畜は単なる農産物ではなく、感受性のある生命存在 Sentient Beingである」** 小澤壮行氏引用

2005/3/28 pal\*system

## スライド 15

# 国内畜産は農業の核となる

- 生命産業としての価値 (命を育む)
- 栄養としての貢献 (体力、健康)
- 地域資源の循環を促進する  
(未利用資源活用、糞尿の堆肥化)
- 豊かな有畜複合型の地域農業をリードする
- 消費者を取り込み、体験 交流型農業を

2005/3/28 pal\*system